

2024年度第3回 神戸市子ども・子育て会議 議事要旨

日時：2024年11月11日（月）13時30分～15時30分

場所：三宮研修センター 8階 805号室

1. 開会

2. 議事

(1) 次期計画案について

●事務局

資料1～6により説明。(省略)

○委員

- ・2ページの最初、ライフステージに応じた切れ目のない支援の下の記載について、こども基本法では、「年齢によって支援を変えてはいけない」となっているため、「年齢に応じて、切れ目なく必要な支援」よりは、「発達に応じて、切れ目なく必要な支援」、とする方が、こども基本法の理念に則っているように思う。
- ・14・15ページの社会的養育の推進の中で、「パーマネンシー保障」は概念として何を指しているかが分かりづらい。「パーマネンシー保障」が何を指すか、説明や注釈を入れるとより分かりやすくなると思う。

●事務局

- ・ご指摘のとおり、同じ年齢であっても育ちはそれぞれであるため、発達の表現を参考に検討したい。

●事務局

- ・国の策定要領にも「パーマネンシー保障」に関する記載があり、我々としては「こども養育に関する永続的な保障」と捉えているが、読む人にとって分かりやすくなるよう記述の仕方を検討したい。

○委員

- ・パーマネンシーは施設養護には使わないと思うので、その辺りをはっきりさせてもらえたらと思う。

○委員

- ・前回会議でも意見が多く出た2ページのイメージ図の改善について、別のところで工夫されるということで楽しみにしている。
- ・こども向けの計画案が、こどもたちの声を基に作られているのが分かって良いと感じた。「みなさんの“やってみたい”を大事にします」というタイトルの続きで見た際、とても大事なことだが、「自分のことや命の大切さを知る」が1番上に来ることに、こども目線で見ると少し違和感がある。「意見を伝える・意見を取り入れる」「“行きたい、居

たい”居場所づくり」が先にあり、その土台には「みなさんは一人ひとりが守られている存在です」というメッセージがあり、次の「だれでも安心して成長できる環境づくりをします」の順番が分かりやすいのではないかと。

- ・こども向け計画案が、こどもたちにどのように届けられるのか決まっていたら教えてほしい。
- ・資料3の(3)の、小学生向けのワークショップの詳細を知りたい。主権者教育にもつながると思う。1度やってみたい。

○委員

- ・2ページのイメージ図について、神戸市は、改正児童福祉法上の「こども家庭センター」に区役所を位置付けているが、児童相談所はまだ「こども家庭センター」と、被った同じ名称を使っていくのか。

●事務局

- ・神戸市では、「児童相談所」を「こども家庭センター」と呼んでいる。一方で、改正児童福祉法には、児童虐待の防止と地域の子育て支援を一体的に行う機関を、「こども家庭センター」という名称で市町村に設置するよう盛り込まれた。名称が被ってしまったことで混乱を招きかねないというご意見もいただいているので、名称変更を検討したい。

●事務局

- ・こども向け版の項目順序について、こどもからも、最初に道徳的な話があるのは難しいという意見を聴いている。他の委員のご意見もお聴きした上で、「意見を伝える・意見を取り入れる」「“行きたい、居たい”居場所づくり」を先にする案も検討したい。

○委員

- ・悩むところではあるが、やってみたいことを保障するためには、命が守られていなければならないし、こどもがのびのびと生活できて初めてやってみたいことができる。こどもの中には、「いじめ」や「虐待」が初めに出てくることで違和感を覚えることがあるかもしれないが、こどもの意見を聴くというのは、こどもの言う通りにすることではない。大人がとても大切にしているというメッセージなので、表現を変えることも考慮し、今の順番で良いのではないかと思う。

○委員

- ・2ページのイメージ図については、詳しいことを知るためにはHPを見なければいけない。例えば、「民生・児童委員」が何か知りたい人のために、図の横に二次元コードをつけ、そこから検索できるようにするなど工夫してはどうか。
- ・こども向け版については、「みなさんの“やってみたい”を大事にします」が全体の1番前に来るのは良いと思う。そのタイトルに対して、初めに「自分のことや命の大切さを知る」が来ることに違和感がある方がいるのであれば、最後に置いても良いと思う。
- ・「最善の利益」をそのまま訳し、「一番良いこと」としているが、計画に載っていないことはその対比で「悪いこと」なのか。「みんなが望むこと」「みんながやってほしいこと」

などの方がよいのではないか。

- ・「子育て支援」など、「支援」という言葉が定着しているが、「助けること」などに言い換えないと、小学校低学年などには分かりにくいのでは。
- ・専門外の身からすると、資料6の「社会的養育の推進」は、注釈がないと分からない言葉がたくさんあった。
- ・12ページの「産後ケア事業」の量の見込みの考え方について、「産後ケアが必要なすべての方」には健康な方も含まれているのか。「5,000（日）」や「6,000（日）」という見込みに対して、確保策が「39（箇所）」では、もっと増やす必要があると指摘されるのではないか。確保策を増やす方法を考える必要があるのではないか。

○委員

- ・子ども向け版の「みなさんの“やってみたい”を大事にします」の中の順序についてはさまざまな意見が出た。事務局で検討してもらった上で、議長預かりとさせてもらいたい。

●事務局

- ・「最善の利益」の子ども向け表現については相当悩んだ。子ども基本法のやさしい版では、「子どもにとって最もよいこと」と表現されており、それを参考にした。計画案を見てもらった子ども全員が『「最善の利益」は難しい』という意見だった。『「みんなの幸せ」が分かりやすい』など、訳し方を考えてくれた子もいた。

○委員

- ・子ども基本法が表すのは、「大人が考える、子どもにとって一番良いことをしましょう」ということであって、子ども目線ではないと思う。子どもが読むもので「よいこと」と変換するのはニュアンスが少し違うように思う。計画に載せるのは「子どもが望むこと」「子どもが叶えてほしいこと」ではないか。

○委員

- ・誰から見るか、どの角度で見るかによって解釈が変わるのでとても難しく感じるが、「みなさんにとって一番良いこと」について、その前の文章で大方のことは記載されているので、思い切って削除し、「みなさんの声をもとに考えて取り組みを進めていきます」だけにすると、まとまるのではないか。
- ・3ページの「成長がゆっくりな子どもや障がいがある子ども」の記載は、子どもが読むものであれば、「成長がゆっくりなお友達や障がいがあるお友達」とする方が身近に感じられて良いのではないかと感じた。

○委員

- ・対象年齢や誰に向かって話すかで大きく変わってくるように思う。呼称よりも、児童館などでどう運用するかの方が大事になってくるのではないか。
- ・2ページのイメージ図は見やすくなったと思う。
- ・3ページ目の「子ども誰でも通園制度」と「一時保育」については、事業をやっている者からすると、同じような内容に思え、区別して考える必要があるのかと感じる。事

業内容や人の配置など、今後議論を重ねていければと思う。

○委員

- ・「最善の利益」の訳し方についてさまざまな意見が出た。事務局で検討いただき、どのような表現が良いか議長も加わり考えたい。
- ・子どもたちにどのように届けられるかについてはいかがか。

●事務局

- ・子ども向けのパブリックコメントについては、教育委員会と連携し、学習用パソコン経由で子どもに直接届ける方法や、子どもの居場所となる施設などに紙で届ける方法など工夫していきたい。

○委員

- ・カードゲームを活用した子どもからの意見聴取について、私が運営している青少年施設でも実施した。意見聴取のワークショップの進め方を事前に説明いただいたので、そのプロセスは良かったが、コーディネートするスタッフのセンスに左右されると感じた。中高生からは思いを持った意見が聴け、神戸の資源をうまく使った意見が出た。
- ・市立須磨翔風高等学校で、月に1回実施している校内居場所カフェでも取り組んだ。100人を超える高校生にグループごとにアプローチをした中で、神戸の海や山をうまく活用した意見や、お金をかけず楽しめる居場所の意見について、しっかり考えた意見を拾えたように思うし、居場所について、人との関係性を重視した意見が高校生から出たことが良かった。
- ・子どもを主体にしたまちづくりの実現に向けては、計画のためだけにとどまることなく子どもから意見を聴く機会を継続し、それを我々がどのように拾うかを考えていくことが大事だと感じた。

○委員

- ・12 ページの「子ども誰でも通園制度」の量の見込みについて、同制度は満年齢で実施するものだが、0歳・1歳・2歳という表記で良いか。
- ・15 ページの里親委託率について、5年後に65%という目標がすごく高く感じるが、数字の根拠を教えてほしい。
- ・子どもパブコメについて、表紙のフォントが中のフォントと違う。読みやすいものにしてもらえればと思う。
- ・「みなさんの家族を支えています」と大きく見出しとして出すことに違和感を覚える。さまざまな事情があり家族がいない子のイメージが含まれていないのではないか。
- ・「働きながら子育てする人が、みなさんと過ごす時間を大事にしながら働ける環境づくりに取り組みます」と、一文の中で「働く」が重複しているのではないか。
- ・資料1別紙の26 ページ「いのちにふれる体験」の取り組み内容にある、「赤ちゃん先生事業」は神戸市の委託事業として計画期間の5年実施する予定ということか。

●事務局

- ・「子ども誰でも通園制度」について、国資料では、「各年度の対象年齢ごと」という記載

となっており、「クラス年齢」と理解しているが、再度確認し説明させていただく。

●事務局

- ・里親委託率については、国が、「3歳未満」及び「3歳以上就学前」は令和11年度末までに75%、学童期以降は50%という目標設定をしている。各自治体でもその数値を目指すこととなっており、「神戸市における里親委託推進のための検討会」でも議論を重ねているが、今後5年間で達成するのは現実的にはなかなか困難だと思っている。「3歳未満」の委託率目標65%は人数で言うと、代替養育を必要とするこどもの見込み35人中23人を里親もしくはファミリーホームへ委託する目標である。「3歳以上就学前」では39人中26人を目標とし、「学童期以降」は361人中119人を目標としている。里親登録世帯数は、現状から100世帯ほど増やす目標であり、里親登録世帯とのマッチングと並行し進めていきたい。数字に縛られ過ぎず、こどもの最善の利益を考え里親探しを推進していきたい。

●事務局

- ・「みなさんの家族を支えていきます」について、元々「子育てする人を支えていきます」としていたが、『「子育てする人」が誰を指すのか分からない』という意見が複数あり、自分のお父さんお母さんが含まれていることが伝わりにくいようだった。さまざまな状況で育てられている子がいるが、そういう方々も含め、周りにいる人が家族と表現し、あえて「みなさんの家族を支えていきます」という示し方もあるかなと思い、一旦事務局の提案とした。
- ・「働きながら子育てする人が、みなさんと過ごす時間を大事にしながら働ける環境づくりに取り組みます」については、まずは企業に柔軟な働き方を工夫できるように促したい思いを、本体のプランに則って表現したが、回りくどい表現になっているかもしれない。より分かりやすい表現になるよう検討したい。

●事務局

- ・今後5年間の計画になるため、事業としての記載の仕方や赤ちゃん先生事業については、確認の上、別途回答させていただく。

○委員

- ・この計画をHPに掲載した際、文章が多く市民になかなか中身を見てもらえないのではないか。できる限り図を多くした方が、多くの市民の目に留まると思う。「こうべ子育て帳」のように、どのターゲットに対して何がある、と分かりやすく示すと、この項目を見てみようと、積極的に情報に到達できるのではないか。
- ・こども向け版についても、できる限り図を多く使うことで、単語についての表現の議論が不要になるのではないか。文字を読んでもらうことも大事だが、内容を理解してもらう目的であれば、視覚的に矢印などの図をもっと増やしても良いのではないか。

●事務局

- ・両資料とも、庁内のデザイナーに相談するなど、より分かりやすくなるよう引き続き検討を続けたい。

○委員

- ・不登校の子は、週1日程度休む子から年間の半分を休む子などさまざまで、後者の子の場合、教育委員会だけでは対応が難しいように思う。他都市の中には、教育委員会と子ども担当部局が連携し、どういったところであれば家から出て居場所となるかなど支援の仕方を模索しているところもある。現状の計画案には不登校支援の文字が無いように思うが、教育委員会としっかり連携し、計画に要素を入れられる余地はないか。

●事務局

- ・不登校支援は課題として認識している。こどもの居場所を運営いただいている団体の中には、取り組みの1つとして不登校支援をされているところもあるため、教育委員会とも議論し、どのような表現ができるか検討したい。

○委員

- ・計画には書かれていないが、こちらから校長先生に提案し、児童館を不登校の子とお話する場所として使ってもらうなど、不登校の児童生徒の受け入れについては、児童館関係者は意識して取り組んでいる。

○委員

- ・計画の中には含まれていないが、さまざまな施策の実行や場の提供には人材が必要であり、その確保についてはどこも課題となっている。それは、幼稚園や保育園、小学校、中学校なども同様だと思うが、人材を育てていくことにも取り組んでいく必要があると感じている。

○委員

- ・医師会から出席しているので、命の大切さに重点を置いてほしいと思うが、子ども向けにはまずは読みやすさが1番かと思うので、後ろとなっても問題ないように思う。
- ・祖父母が孫を見ていることも多くあるので、お年寄りも大事にする風潮を醸し出してもらえるとありがたい。

3. 報告

(1) こども誰でも通園制度の今後の方向性等について

●事務局

資料7により説明。(省略)

○委員

- ・国の基準に基づき条例を制定することだが、自治体によって現在の試行実施の運用はさまざまだと聞いている。国の基準そのままではなく、神戸市としてより良い制度となるよう考えてほしい。

●事務局

- ・国の動きを注視し、状況を踏まえながら、より良い制度になるよう努めていきたい。

第3回 神戸市子ども・子育て会議 委員追加意見要旨

- 共働きでない親もいることから、子育てする人が子どもと一緒に過ごす時間を増やせるように、勤め先から協力してもらえるよう取り組む、などの文言にしてはどうか。
- 子ども向け版は、対象とする子どもの年齢層を考えると、イラストや写真などで示す工夫があってもいいのではないか。
- 識字障がいをもつ子どもは、ルビを打っているだけでは理解が難しい子もいると聞く。そういった子たちのためにUDフォントを活用してはどうか。
- 子ども全体を指すときは「子ども」として、限定的な子どもを指すときは「人」としてもいいのではないか。「(障がいがある)ともだち」とする意見も良いとは思いますが、子どもを一人の人として扱うメッセージにもなるのではないか。
- 子ども向け版について、小学生と高校生が同じ文章・内容で違和感がある。高校生向けの文章や内容を別で作成した方がいいのではないか。
- 働き方の見直しのため、学校側の受入れ時間が制限され、登校までの時間を子どもだけで過ごさなければならなかったり、中学生の部活動にも制限がかかるなど、10年後が心配。児童館についても、人材不足などの課題に対する目標を掲げているが、本当に達成できるのか。
- 里親やファミリーホームに重点を置いて、子どもの居場所をつくってほしい。